

1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 今回の問い「ざらざら、つるつる」	園名	ヒューマンアカデミー調布多摩川保育園		
	クラス	2歳児（うさぎ組）	人数	16名

<テーマ設定理由>

当園は、充実した実体験を積み重ねることを大切に保育をしており、今年度からアート講師とともに保育をすることで、探究的な視点を深める保育を強みとしている。涼を求めて、氷、色水、寒天などの感触遊びをしたところ、大変興味をもっているため、夏に限定した物ではなく、季節を通じて自然の中の恩恵を感じ工夫が見られる遊びへと展開して探求心を深めていくため、感触遊びをテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

年間スケジュール：2025年5月～2026年2月 活動記録：2025年6月～2025年11月
 ①活動前週に散歩でどんぐり、葉っぱ、枝やなど使用する素材を子供と一緒に集める
 ②活動当日、テラスにテーブル4台を設置、砂を乗せる。砂の下には散歩で拾ってきた素材に貝殻を足して砂の下に隠す③うさぎ組の部屋で活動の内容を子供達に説明
 ④テーブル園児4名、保育士1名がつきサポートする⑤感触遊び活動開始
 ⑥子供達の様子を見ながら途中でスプーンや氷を追加する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

素材～砂場び砂、どんぐり、葉っぱ、枝、貝殻、氷
 道具～スプーン、バケツ、ジップロック
 環境設定～うさぎ組前のテラスに園児用のテーブル4台置き 各テーブルに園児4名及び保育士1名がつき活動する
 ・探究活動を深めるために、アートの専門家と共に日々の保育活動及びアート活動を実施

4. 探究活動の実践

<活動内容>

クラスで活動の内容を伝える。テラスで活動の準備をしていて、窓越しに子供たちは何が始まるのかと興味深々であった。室内で今日の活動の内容を簡単に話す。その後テラスに出てテーブルについて活動開始。砂の感触を味わいながら、砂の下に、葉っぱや貝殻、小枝を隠し中に隠されている素材を見つけて、新しい発見や気づき、表現など探究活動を行う。途中で新たに氷を足し、子供達の遊びの幅を広げる。砂のざらざら、氷のツルツル、合反した素材を使用することで感触の違いを感じながら、子供達の興味関心を伸ばした。活動時間は45分以上に渡る。途中で飽きることなくどの子も集中して活動していた。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

問い：「ざらざら、つるつる」
 普段の保育でも小麦粉やはるさめなどの感触遊びを取り入れ実践している。砂のざらざら感触をよりはっきりと感じてもらうために、反対の触り心地、つるつるを用意した。他の素材での感触遊びの経験を通して様々な感触の理解が深まり、子どもたちの中で新たな気づきや発見が生まれることを目的として今回のテーマが生まれた。

- ・テーブルの上でスプーンを走らせ、「工事中」と言って工事現場に見立てたり、腕で砂を掻き分け下に落とし「工事している」と自分の腕をショベルカーに見立てて遊んだりして楽しんでいった。
- ・見つけた葉っぱをスプーンかわりにして「ご飯ですよ」と言って砂をすくって遊んでいた。
- ・氷を1人ひとりに渡すと初めは不思議そうにしていた。「なんだろうね？」と子供の寄り添いながら一緒に考えるようにしたところ、子供達も触ることに興味が出た。氷を砂の上に置くと砂が氷につき変化すると車に見立てて、「ダダダダ」と言って壁面を走らせている児もいた。また「真っ黒だね？」と言って冷たさも忘れて氷を握りしめていた児もいて氷の素材は大変喜んでいった。
- ・砂から見つけた貝殻を2つに合わせて叩くと音が出ることに気がつく。「いい音がするね」と保育者も一緒に音を鳴らすと、周りにいた児も真似して鳴らしていた。
- ・バケツに自分の見つけた素材を入れ、かき混ぜて「洗濯してるのを見立て遊びをしていた。「たくさん洗濯できるね」と言うと頷き、さらに熱中していた。
- ・バケツの中に砂を入れると次々に子供達が集まり、5人ぐらいのグループになる、「ケーキを作る」と言う児がいると、皆の賛同しケーキ作りに遊びが展開。保育者がハッピーバースデーの歌を歌うと皆で歌い大合唱となる。小枝を立てたり、貝殻やどんぐりをトッピングに見立てたりして、熱中して遊んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

素材が触り慣れたものや、自分達で拾ってきたどんぐりということもあり、想像以上に集中して遊んでいた。感触遊び、いつもと違う素材でと考えてしまいがちではあるが、親しみのある素材をいつもと違う遊び方で楽しむのも、遊びの展開に変化があり良いと感じた。砂の中から次々と素材が出てくる意外性が子供達の心を掴み、普段感触遊びが苦手な子も楽しんで参加することができた。子供達が自ら遊びを見つけ自分なりの遊び方をするこの原点は遊びの意外性がキーワードであることを実感する。45分以上たつぷりと途中で飽きることなく集中していた子供達、満足そうな表情で終えることができたこと今後の保育の参考にしたい。

1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 今回の問い：薪を触って木を感じてみよう 「木の中には何があるかな？」「さわってみたらどんな感じだろう？」	園名	ヒューマンアカデミー調布多摩川保育園		
	クラス	2歳児（うさぎ組）	人数	16名

<テーマ設定理由>

当園は、充実した実体験を積み重ねることを大切に保育をしており、今年度からアート講師とともに保育をすることで、探究的な視点を深める保育を強みとしている。涼を求めて、氷、色水、寒天などの感触遊びをしたところ、大変興味をもっているため、夏に限定した物ではなく、季節を通じて自然の中の恩恵を感じ工夫が見られる遊びへと展開して探求心を深めていくため、感触遊びをテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

年間スケジュール：2025年5月～2026年2月
活動記録：2025年12月～2026年2月

- ①薪をみせて問いかける
- ②着席したテーブルに一人一つずつ薪をおいて、自由に触れて観察する
- ③パステルを渡し、自由に色付けをする（スティック・粉）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

薪、パステル、木炭、トレーシングペーパー
※パステルは、スティックだけでなく粉も用意して、綿棒で色を塗ったり混ぜたりできるようにする
・探究活動を深めるために、アートの専門家と共に日々の保育活動及びアート活動を実施

4. 探究活動の実践

<活動内容>

クラスで活動の内容を伝える。テラスで活動の準備をしていて、窓越しに子供たちは何が始まるのかと興味深々であった。室内で今日の活動の内容を簡単に話す。その後テラスに出てテーブルについて活動開始。砂の感触を味わいながら、砂の下に、葉っぱや貝殻、小枝を隠し中に隠されている素材を見つけて、新しい発見や気づき、表現など探究活動を行う。途中で新たに氷を足し、子供達の遊びの幅を広げる。砂のざらざら、氷のツルツル、合反した素材を使用することで感触の違いを感じながら、子供達の興味関心を伸ばした。活動時間は45分以上に渡る。途中で飽きることなくどの子も集中して活動していた。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

今回の問い：薪を触って木を感じてみよう

「木の中には何があるかな？」「さわってみたらどんな感じだろう？」

子どもたちは戸外遊びの中で、木の幹の感触を確かめたり、実を拾い集める、木の枝を持って遊ぶ姿がよくみられた。中でも木の根っこにある深い穴のなかがどうなっているかを想像して「何があるの？」「おーい！いる？」「（石を置いて）ドア！」などおしゃべりする姿がみられたため、薪の感触遊びを取り入れた。きのこの栽培をしていた事も遊びの発展に繋がると考える。

保育者「これなんだっ？」

子どもたち「きー！！」「きのこ！」

声をかけ薪を置いたテーブルに促すと、それだけで子どもたちは自由に薪に触り感触や音を確認していた。一人の子が麵棒のように転がしたら、次第に「ゴロゴロ」と音が聞こえてきて、周りの子ども夢中で無言になりゴロゴロ！

薪を立てて倒してみたり、皮を剥がしてみたり、匂いを嗅いだりと夢中で探究が始まった。

- ・「きもちいい」「かたい」など感触を言葉する
- ・2本持ち上げて「重い」「軽い」と比べる
- ・木の皮をむくとつるつるの木が見えて夢中にむく
- ・細い木を綿棒にみたくて転がす
- ・みんなで薪を積み、橋のように見立てて遊ぶ
- ・木のおいを嗅ぎ「しいたけのおいがする」

パステルを渡すと、自然と木に描き出す子どもたち。カラフルな色水で縞々模様を描いたり、くぼみにパステルを入れてみたりする。色々な色でカラフルに塗っていた子は触っているうちにパステルが薄くなり、他の色と混じってふんわり優しい色の薪になっていた。

木の表面のパステルがこすれて消えてしまうと不思議そうに見てまた上から描いてを繰り返してやってみる姿も見られた。



持ち上げて叩くと、音がしておもしろい！



「トンネル！」交互に重ねると下に通り道ができた！



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

転がしたり立てたりゴシゴシしたりととても長い時間をかけて自由に探究していた。ひっくり返し触れてみてはささやかな凹凸に気づいたり、重さや音の違い、縦横に組んでトンネルが出来たり、周り様子もみながら子どもの考察が広がっている様子だった。

また、パステルを手渡した時に「木に描いてみよう」と促さなくても、子どもたち自身がたくさん触って愛着を持った自分の薪に色を塗ったり描いたりを楽しむ姿があり、継続して探究活動をすることで、子どもたちも探究のプロセスに少しずつ慣れてきたように感じる。

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然 「種から想像してみる」	園名	ヒューマンアカデミー調布多摩川保育園		
	クラス	5歳児（ぞうぐみ）	人数	16名

<テーマ設定理由>

当園は、充実した実体験を積み重ねることを大切に保育をしており、今年度から近隣の畑と連携をして野菜の播種から収穫までを体験する。また、今年度からアート講師とともに保育をすることで、探究的な視点を深める保育を強みとしている。

例年、夏野菜やサツマイモなどの栽培を行う中で世話をしながら生長する過程で興味関心が高まっている。この「栽培」を通して農や生長を喜び感謝するとともにその過程を通じて発見した自然の変化に気づき、手に触れて楽しみ探求心を深め、生命の大切さを知っていくため自然をテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

年間スケジュール：2025年5月～2026年2月

今回の実施内容：2025年5月～2025年11月

夏野菜の栽培、お米の栽培、提携農家と連携した自然活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・アボカドの種・はがきサイズの画用紙・色えんぴつ・横1/2サイズの白模造紙・絵の具・筆
- ・子どもたちが調べるための書籍、図鑑

事前にアボカドの種を保育室にしばらく飾って自由に触れられるようにして「なんだろう」と興味をもつことができるようにする

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・はがきサイズの画用紙に「何の種何だろう？」と観察して想像した物を色鉛筆で描く（何の種なのか、実なのかを予想して描く）
- ・次に壁に貼ってある横長1/2サイズの模造紙に、グループごとに絵の具で描く
- ・探究活動を深めるために、アートの専門家と共に日々の保育活動及びアート活動を実施

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

今回の問い：「種から想像してみる」

今回の問いの理由：夏野菜やお米の栽培、畑での種まき等栽培や収穫の経験をしてきた。また、制作などでは、絵をよく見て立体にするのが得意な子が多い一方、独創的に自分の思うままに創作する子もあり、それぞれの感性を垣間見る機会が多くあった。そこで、子どもたちが普段目にする植物の種ではなく知らない植物の種を植えるとどんな花が咲き、どんな実がなるのか、まずは知識を得る前に想像することを楽しんで欲しいと考えた。

探究活動日まで、アボカドの種を保育室に飾って子どもたちが見えるように置く。皮をむいたり割って中を見ようとしたり、においをかいだりする様子が見られた。

子ども：栗のにおいがするから、栗だと思ふ。

保育者：（一緒ににおいを嗅ぐ）似ている匂いがするね

子ども：桃に形が似ているから桃

保育者：確かに桃みみたいな形だね。



目線の高さに貼ってある模造紙には大胆に筆が連がる。

子ども：家にあるジャガイモに似ている、ジャガイモなのかな？

保育者：こういう小さいジャガイモあるね。

子ども：ヒマワリの種が大きくなったんじゃない？だから、ヒマワリの花を描くよ。

子ども：「えっ！ヒマワリだと思ったんだ！」描いた絵を見て、友達のお考えに気付く。

【子どもたちが考えた「なんのたね」】

いがぐり・もも・どんぐり・お米・ライオン・チューリップ

【子どもたちが考えた「どんな実/花がなる」】

どんぐりの花・コスモス・ひまわり・トゲトゲのついたり・いちにちおこめのはな・チューリップ



以前畑で収穫したひまわりの種が膨らんでまあるくなったやつ

（だからひまわりが咲くと思う）



農地で、にんじんとカブの栽培



10月
ひまわりの種とり



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

見慣れないアボカドの種に実なのか種なのか、手で握ったり匂いを嗅いだり机の上で弾ませてみたり子供たちなりに触れて想像する姿があった。実際に想像した物を絵にすると同じ机の友達とアイデアを出し合いながら描き進める。これまでの経験から見た事のある植物や食べ物や想像する子どもが多い中、ヒマワリやライオンと自由に発想する子どもの姿もあり、想像の豊かさを感じる事ができた。図鑑や書籍を読んで調べる姿が見られたが、破損や不足している図鑑があったため購入を進めていきたい。

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然 「土粘土でそうぞうしよう！」	園名	ヒューマンアカデミー調布多摩川保育園		
	クラス	5歳児（ぞうぐみ）	人数	16名

<テーマ設定理由>

当園は、充実した実体験を積み重ねることを大切に保育をしており、今年度から近隣の畑と連携をして野菜の播種から収穫までを体験する。また、今年度からアート講師とともに保育をすることで、探究的な視点を深める保育を強みとしている。

例年、夏野菜やサツマイモなどの栽培を行う中で世話を生る過程で興味関心が高まっている。この「栽培」を通して農や生長を喜び感謝するとともにその過程を通じて発見した自然の変化に気づき、手に触れて楽しみ探求心を深め、生命の大切さを知っていくため自然をテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

年間スケジュール：2025年5月～2026年2月

今回の実施内容：2025年12月～2026年2月

夏野菜の栽培、お米の栽培、提携農家と連携した自然活動、自然物を生かした造形活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

土粘土20kg、乾いた土粘土5kg、水

乾いて固くなった土（乾いたら水を混ぜると粘土に戻る性質を知るため）

ブルーシート、プラカップ、スプーン、串、凧糸、ハンマー、図鑑

探究活動を深めるために、アートの専門家と保育活動及びアート活動を実施

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①この土粘土で何ができるかな？」と問いを投げかける
- ②凧糸をくばり、土粘土をきる（見本をみせる）
- ③お皿やスプーン、割りばしやカップなどを並べる
- ④乾いて固くなった土をわたす→水をかける
- ⑤それぞれの作品をつくる

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

問い：土粘土で想像しよう

今回の問いの理由：年間を通して、畑で作物を収穫したり、種を植えたりと自然をテーマに栽培活動に積極的に取り組んだ。その中で、提携している畑の土でお団子を作り、感触やそれぞれの感性がみられたことから、今回の問いは、土粘土の説明をした上で、子どもたちと一緒に「何が作れるかな？どんなことができるかな？」と考えて設定した。

保育者：これ土粘土って言うんだけど土ってどこにある？

子ども：畑・砂場・公園…幼虫のいるところ！

「今日はこの土粘土で何ができるかな？」と開始する。

凧糸を1人ずつに配り、粘土を切り出すところを一度やってみせると要領を掴んで次々と自分の分を切り出した。ちぎったり、さらに凧糸で小さく切ってみたりとそれぞれ工夫をして取り組む。そのうちに、雪だるま、タコ！、だんごなど作品ができていく

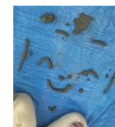
「顔を作ってみた、口の向きかえられるよ！」

途中で、お皿やスプーン、割りばしやカップなどを並べるとそこからさらに「ココアだよ」「チーズバーガー」など美味しい物へと遊びが広がる。乾いたら固くなり、それを土粘土を木槌で叩いたり、ふるいにかけてさらに細かくする様子も見られた。そして水をいれて再び土粘土で作品をつくる。

「きりん作ったよ」「ぞう」「（水とまぜて）ココアできたよ」「ボーリング」など作ったものや、重さを感じたこと、水をつけると表面がつるつるになることなど探究の過程で発見したことを話す。また、友だちと相談したりアイデアを出し合うことで気づきが広がる様子も見られた。



ココアみたい



口の向きかえられるよ



たこと人



農地での泥団子づくり

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

普段の粘土遊びの中で絵本や図鑑をみて形にする姿や、イメージしたものを具体的に作る姿がみられていたが、土粘土に触れることが初めてであり、更に保育室を広く使ってダイナミックに粘土遊びをするのは初めてだったので、意欲をもち参加する児が多かった。

活動内では、イメージしたものを作る子、一度作ったものを形状変化させて作り変える子、粘土自体を水に浸して形状変化を楽しむ子、講師が持ってきていた乾いた状態の土粘土をハンマーでたたき割り、感触を楽しむ子と様々だった。子どもたちの発見や喜びが多い活動であったため、今後も継続して様々な素材を活動に取り入れていきたい。また、人や生き物の形などを書籍で調べる機会が多くなったため、探究を深めるために多角的な視点の図鑑を準備していく。